



様式第2号

令和元年10月30日

坂戸市議会議長様

会派名 公明党

代表者名 藤野 登



実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

記

1 期 日 令和元年10月23日(水)午後1時30分～3時30分

2 参加者氏名

藤野 登	古内秀宣	柴田文子	野沢聖子

3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 全員協議会室	坂戸市議会議員研修会 「2019・2020のレガシーと本県スポーツの未 来」

4 概要

別添のとおり

坂戸市議会議員研修会結果報告

- 1 日 時 令和元年10月23日(水)午後1時30分～3時30分
- 2 行 先 坂戸市役所全員協議会室
- 3 内 容 「2019・2020のレガシーと本県スポーツの未来」について

4 内容についての概要

坂戸市議会議員研修会では、前記内容について、講師の埼玉県県民生活部スポーツ局 参与久保正美先生より講演を聴取し、質疑・応答を行った。

説明及び主な質疑は次のとおりである。

(1) 「2019・2020のレガシーと本県スポーツの未来」について

ア 講師自己紹介

平成21・22年度県立坂戸西高校校長歴任。西高校時代、スポーツに力を入れていることからマスコミに「日本一の体育祭!」との評価を得た。運動部の活躍は当時から大変活発だった。女子栄養大学と連携し「平成22年度全国学校体育研究最優秀校」に選ばれ、約5千校の頂点である文部科学大臣賞を受賞した。

イ 「ゴールドンスポーツイヤーズ」(2019年～2021年の3年間)について

(ア) ラグビーワールド2019

- ・2009年7月に日本開催決定。全国12会場のうち、ラグビー専用スタジアムは熊谷を含む3施設のみである。
- ・2018年8月熊谷ラグビー場が新装。国内スタジアム初のティフグラウンド芝を採用。夜間照明、大型映像装置等充実した施設が完備。
- ・日本代表の結果は、予選ラウンド全勝し、決勝トーナメント進出。

(イ) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

- ・2013年9月に東京開催決定。バスケットボール、サッカー、ゴルフ、射撃が埼玉で実施。

ウ 2019・2020のレガシーについて

(ア) レガシーへの取組と本県スポーツの未来

- ・両大会の「埼玉県推進委員会」は県、市町村、スポーツ競技団体等の代表者などで構成。基本理念は「オール埼玉による取組 スポーツを通じたレガシーの創出」ビジョンは「SAITAMA PRIDE」

(イ) RWC 大会招致とラグビー場整備

- ・埼玉県招致委員会を設立。2014年に招致実現のための署名活動実施。2015年3月に開催決定。2万4千人収容のラグビー専用スタジアムの整備。

- ・RWC 大会により、県北の地域活性化、専用スタジアムを活用した大会誘致、日本ラグビー界への貢献といった、ハード面のレガシーが残せた。
- (ウ) 世界で活躍するアスリートの輩出
- ・リオデジャネイロオリンピックでの日本選手団41個のメダルのうち、埼玉ゆかりの選手は10個で、過去最高だった。
 - ・東京オリンピックに向けた「選手強化事業」では、埼玉ゆかりの選手を100人目指している。
 - ・ソフト面のレガシーとして、本県スポーツ競技の向上、スポーツ科学を活用した選手育成、障害者スポーツの普及・理解がある。
- (エ) 世界に誇れるおもてなし
- ・ボランティア（オリ・パラ都市ボランティア5400人、RWC ボランティア1300人）及び研修会（リーダー研修、語学研修）
 - ・埼玉県版ホームステイ（各国選手役員の家族等、県内670家庭が登録）
 - ・スポーツボランティアの推進、ホームステイによる国際交流、本県のイメージアップと認知拡大をレガシーとして目指す。
- (オ) ホストタウン事前トレーニングキャンプ
- ・ブータン王国（寄居町）、ブラジル（県・新座市・立教学院）、イタリア（県・所沢市・早稲田大学）
 - ・多文化交流、市町村のスポーツによる国際交流、スポーツ団体の国際交流がレガシーとなる。
- (カ) 文化・教育プログラム
- ・RWC 埼玉会場では、熊谷市内児童生徒14000人が観戦（文化を学んだり、国歌を覚えて合唱）
 - ・ラグビーの精神を学ぶ（フェアプレイの精神、ノーサイドの精神等）
 - ・東京オリパラ大会では、学校連携観戦チケット（全国の児童生徒、1枚2020円、100万人以上）を予定。
 - ・スポーツへの関心を高める、子ども達に生涯にわたる思い出・財産、埼玉県の文化芸術を世界に発信等のレガシーが期待できる。
- (キ) 聖火リレー
- ・県内期日（2020年7月7日～9日）。9日に坂戸市を通過する。
 - ・県内各地の魅力を世界に発信、県民の生涯にわたる記憶、オリンピックムーブメントの普及等のレガシーが期待できる。
- (ク) その他
- ・スポーツの普及・強化、青少年の健全育成、中高年の健康増進・生きがい、障害者スポーツの振興等多岐にわたる可能性がある。

エ 運動部活動－生徒の成長に大きく影響

(ア) 子ども達を取り巻く環境の変化

(イ) 運動部活動の課題

- ・部員数の減少、教員の減少・多忙化
- ・指導者の指導力不足
- ・学習との両立等

(ウ) 運動部活動は世界に誇れる日本の教育文化である。

(2) 質疑応答

問 熊谷会場は駅から離れているが、対応は

答 約400台のバスを運行。4つの駐車場を利用

問 パナソニックのラグビーチーム（群馬県太田市）を埼玉に誘致する際、太田市から反発はなかったか

答 「北関東のチーム」という考えで応援する

5 感想・所見

ラグビーワールドカップ2019日本大会開催の最中の研修会で、大変興味深くまた感動する講演であった。日本代表メンバーの歴史に残る大活躍で、日本中が興奮し、ラグビーというスポーツの素晴らしさに感動した人は計り知れないと思う。日本開催と埼玉での開催に携わった関係者の尽力に、心より敬意を表す。

日本代表チームの試合を見るまでは、正直あまり興味も馴染みもないスポーツであったが、「百聞は一見にしかず」という言葉の通り、選手達の闘志を目の当たりにすることや、そのスポーツに込められた精神に触れることによる感動こそスポーツにおける最大のレガシーと感じた。闘い切った選手の汗と涙と笑顔は、どれも輝いていて、間違いなくファン層の拡大や子ども達のあこがれになったとも思う。講演でもスポーツを通じたレガシーの大きさを十分知ることができた上、スポーツ推進の重要性を実感することができた。

東京オリンピック・パラリンピックが目前に迫り、大会の成功に向け急ピッチで準備が進む中、私達自身が何をすべきか問われていると感じた。本県と坂戸市のスポーツの未来のため、微力ではあるが力を発揮したいと感じた研修会だった。